題材・教材名【時計の学習】	領域・教科【数学科】
①短針の読みを補助する枠 時間ごとに切り分けたものをラミネートし、接着力の弱いタイプの両面テープ（取り外しが容易）で時計に貼りつけてある。 ②長針の読みを補助するシール （１０分ごと、５分ごと） ◇指導方法 ・教師が提示する時計を読む。 ・教師が提示する時刻に時計を合わせる。 補助を手がかりにして繰り返し行う。特に初期の段階では、「○時○分」という言い方に慣れるように、自分で読めなくても教師が一緒に読んでいく。定着し、自信を持って読めるようになったら、生徒の特性に応じて段階的に補助をはずしていく。	◇指導のねらい ・短針の読み方を習得する。 ・５分、１０分単位で長針を読む。 ◇指導の評価 ①短針の読みを補助する枠 ○時ちょうどの時刻がわかるが、短針の読みの理解が不十分で３０分単位の時刻を正しく読むことが難しい生徒に使用した。視覚が優位な生徒に対しては、言葉による説明だけでは難しいのでこの教具を作成した。短針がちょうどの位置にない時でも、視覚的な手がかりを与えることで自信を持って読むことができた。繰り返し読みの練習をすることで、比較的容易に枠をはずしていくことができた。 ②長針の読みを補助するシール ①で短針の読みが習得でき、３０分刻みの時刻が読めるようになった生徒に対して段階的に導入した。シールを手がかりにして繰り返し読みの練習をすることで、１０分、２０分等の位置を覚えることができ、シールがなくても読めるようになった。特に１０、２０・・・のように１０とびや５とびで数えることができる生徒には有効である。一度に貼るシールの数（情報量、補助となる手だての量）については、生徒の実態や特性に応じて配慮した。